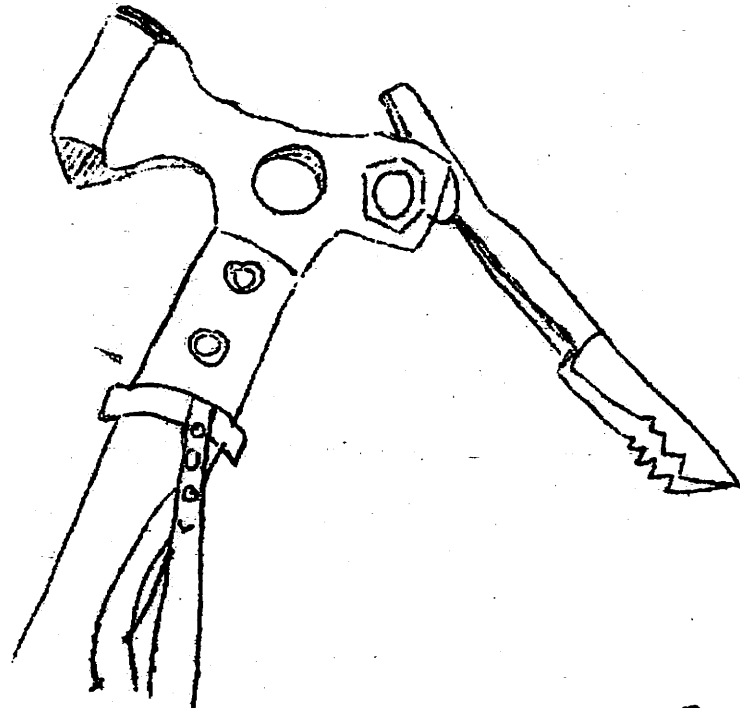


# 冬山Pre冬

プラス

十秋山個人山行 ホ-コク書

1983年度



信州大学山岳会

SAC®



大和屋	野郎 小屋	又六屋	槍	橋尻根 Pの左	サウナ
12/25 (丸)					
12/26 ←	薬師ヒスト				
12/27 →					
12/28 →					
12/29		fix隊 →			
12/30		槍の焚火に →	P fix隊 →	F →	
12/31				fix隊 →	F →

行動記録)

概

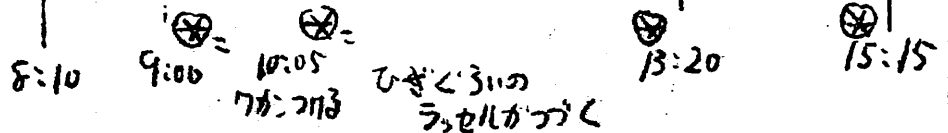
12/18 全員 AM 12:35 の電車で富山へ PM 6:00 着

下界の最後の夜。今日は ステーション ビバーク!

12/19

西川やま  
ハス行

大和屋



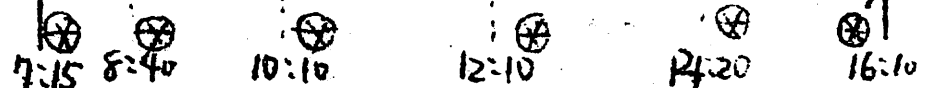
全員 11:15 行動する 荷が重く 311!

水の法則 11:30 7 ティーはる。

12/20

T.S

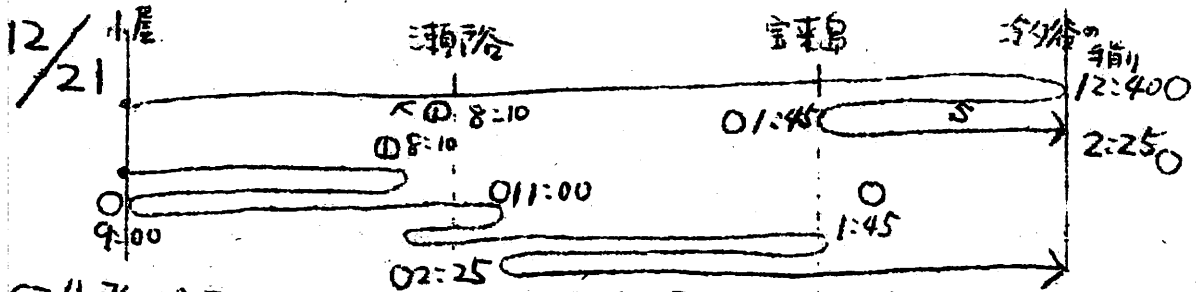
大和屋



トリアリハは  
お身でラセル

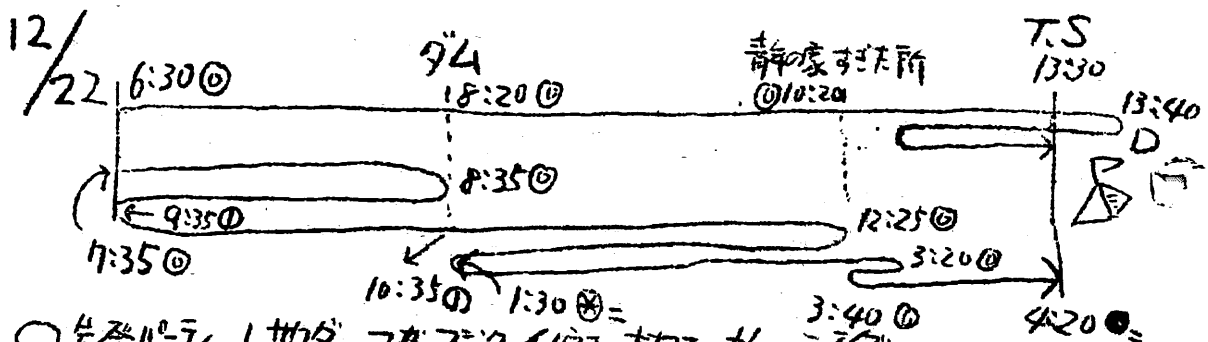
全員いっしょに行き、雪が1cmほどはみぬれ、雪のトピックは  
はから身でう、むしろ 2日目サートもから身!

オカモトのパワーがすこぶる、山の料金所3箇所ある



- 先発パーティ Lホリカワ + カムラタカリ ミスタニ オカモト モリカドヤ  
 装備 予ダン箱 7コ ツェルト4 タボール 物 医療カン1  
 一日中ラセルへ 1:00のトランシーバー交信でテント休をきめる  
 2日後発隊をサートへ行く 着山の予定天気!

- 後発パーティ Lサダ コガ マジタ イノウエ 木根 坂-シメダ  
 装備 残り全部  
 は(ぬの)のダブルボ、かた(70)うつく(11)た(10)のシメダ



- 先発パーティ Lサダ コガ マジタ イノウエ 木根 坂-シメダ  
 トランシーバーの交信の南35分間でテント休決定がみれる

- 後発パーティ Lホリカワ + カムラタカリ ミスタニ オカモト モリカドヤ  
 2回目のテントの4に3日 1日目のテントもむね帰ってくるが、テントの  
 4の3日あつからり、4のぬすく サートへ先発隊がきてきた  
 テント入るが雨、林道4日目でもいやになる

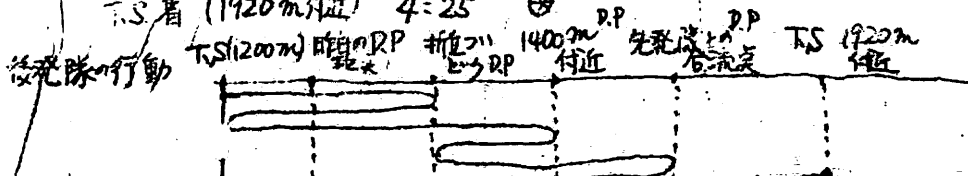
1983 12, 23

先発隊：細川 古賀 中村 井上 下田 角谷 水谷

TS 飛 (1200m 付近)	6:55	◎	
1300m 付近	7:15	⊗	昨日のデボの一部回収
折立 隧道出口	8:25	◎	
ヒュッテ 折立	8:55	⊗	積雪の位置、小屋はうら、2台
1700m 付近	11:55	⊗	
1920m 付近 (T.S)	1:15	⊗	足が凍りつく、3人3人 (視界悪く)
後発隊と合流	2:15	⊗	
T.S 着	3:35	⊗	

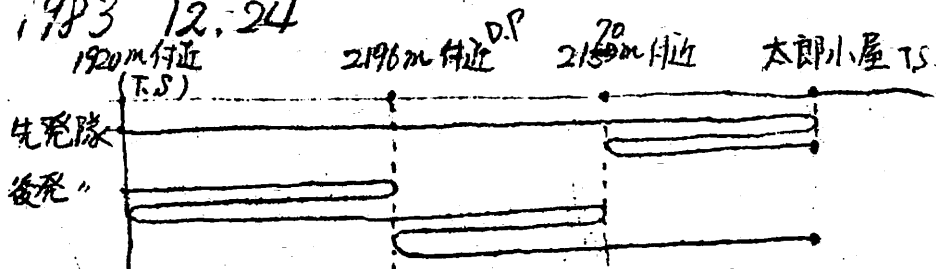
後発隊：細川 古賀 藤田 大森 森 加ト 岡本

TS 飛	7:30	⊗	
折立 隧道	8:45	⊗	D.P. 視界悪く
1400m 付近	11:55	⊗	折立の道へ D.P. 回収キレ
先発隊と合流	2:15	⊗	
T.S 着 (1920m 付近)	4:25	⊗	



天候が芳しくなく、必ずと疲れは日ごと。この日を期して、10km 近くは (尚二のうは狭いスペースにしては、Kのはるなスペースのジャン) by 水谷

1983 12, 24



先発隊：細川 古賀 藤田 大森 森 加ト 岡本

T.S 飛	7:35	◎	快調に進む
2200m 付近	10:00	◎	
太郎小屋	11:00	◎	後発隊の補給に向かう
後発隊と合流 (2170m 付近)	12:10	◎	
太郎小屋着	13:25	◎	午後から急に雲がでてきて、月がみえず風が強くなる

後発隊：細川 古賀 中村 井上 下田 角谷 水谷

T.S (1920m 付近) 飛 8:45 ◎ 朝少曇り、21:00 まで晴れ



1983 12.27

- 大瀬小屋登 7:40 ○ 視界良好!
- 2400m付近 8:45 ○ 直射日光のため蒸せし汗はWシャツの中の服をぬらす
- 北俣岳少し越し 10:00 ○  
てあり
- 中俣乗越 11:10 ① 視界なし
- 黒部五郎山頂 1:35 ① この少しまでカンからアイゼンへつなぐ
- 〃 小屋 3:15 ① 冬期小屋あり

今日の最初の目標は中俣乗越であり、これが初めのうち順調に進んでため先へ行くにつれて目標地まで先へ進む。黒部小屋まで来ては、これは、積雪上の雪がほとんど飛石のためかと思われず。

黒部五郎の小屋は、2階建てとなっており入口は梯子を昇り2階から入る。1階は3畳、2階は2.5~3畳位の広がりあり。また1階は2段式キッチンがあり9人、2階は5人寝た。便所は7人用で1階の窓から肉可能でそこから外へ出ると、狭さ丁度く暖かくぬるむ。

12.28

by 水谷

- 小屋登 7:40 ●
- 2700m付近 8:50 ● 水が少し進んだと32"
- 三俣蓮華岳山頂 10:15 ● アイゼンをつける
- 双六南峰通過 11:45
- 双六小屋着 ① 12:25

今日は、ガスが濃く、風も強くて、大変して不思議はないくらいの日候でした。アイゼンの調子の悪かた/年生もいしましたが無事小屋に着くことができました。双六小屋は、中トイレもあり、快適でした。(F田)

12.29

先登隊 上ホリカワ、ナカウラ、タカトリ

① 7:10 双六小屋登

① 12:30 肩の小屋

モミ采索からの下降が急な雪壁でなだらかな斜面であるが、雪が安定しておりfixはなからず。全体でもno-fix。槍のホサキのfixは時間はあったが、とまっている人が多く行けなかった。

(Fかへり)





# 12.31 後発隊

07:35 発

8:25 P6 付近

9:00 P6a fixと荷5 ) fix 通過に時間がかかる

11:45 P4あたり、

13:05 2のかり-出口 ) 登る人とのすれちがいに X4チャンク  
14:00 横尾着 時間がかかり、13:00までに横尾に着くという  
意気込みも自然に消滅した。

先発隊と合流し、協議の結果、直はバックリトレースがっているというので  
米渡向けで道を二岐にする

15:00 徳沢

16:35 町堂橋 夕暮れ道る

トンネル手前でヘッドランプをつける

21:00 米渡着

||

22:00 松本

197シー

トンネル過ぎてイノウエシモダが靴ずれのためおくれ、  
7人がつかうきをしてくれる。

とうとう年内下山をしようとした。大みそかというこもあり、  
横尾尾根を登る人が多くて、下るのに時間がかかると  
なった。米渡への直路は凍結して滑りやすくなってしまった。  
無事松本へ帰り着き、涙が出るくらい嬉しかった。(下田)

## 気象 (日ごとの天気) 中村

12/19

7:4 西うら山駅 小雪、雲は低い。積雪量は20cm

15:10 T.S着 昼は3雪やむ、無風

12/20

朝 出発前小雨、小雪の中出発。降ったりやんだりが続く。風はほとんどなし。

昼 一時晴間が見えたが、上空の風はNであるため互換は見られない。

12/21

朝 風が東に変わる。出発して1時間後、移動高のほり出しによる快晴となる。  
1日中天気良い。

12/22

朝 晴れたり曇ったりの天気。午後みぞれが降る。これは山の通過に  
とむ。暖かい南風が吹く。きんたため。

12/23

雪、風共にあまりない。一日中は、よりよい天気、昼前、前線が通過したようだ。

12/24

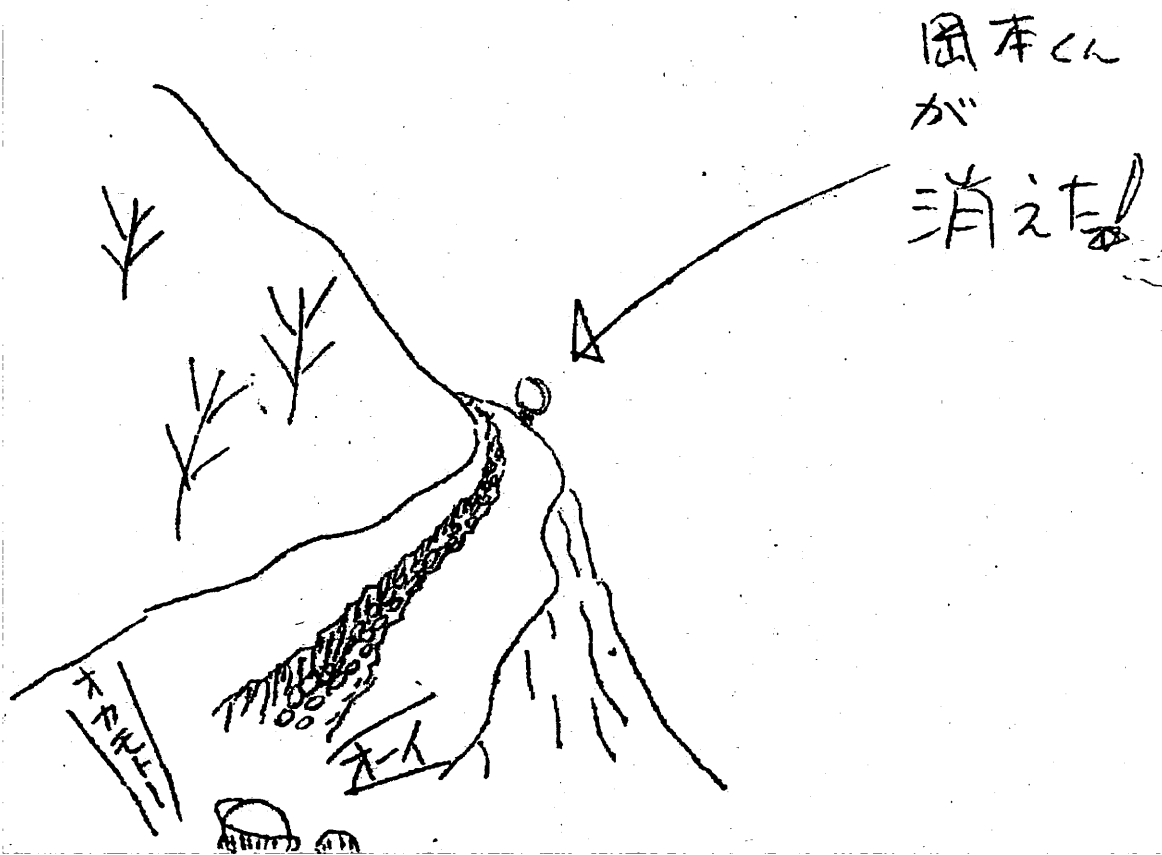
出発前空全体に雪、9:30くらいには雪は可憐で消え

快晴(疑似好天)となる。12:45 ころ雪が現れ始め、

1:15 ころ雪が降り始め全面に雪が広がる。

# 気象

- 12/25 朝からガス、雪、風ともに強し。一日中続く。
- 12/26 朝 きのうより弱まる。8:00 薬師平より上にガス、晴山頂も見える。薬師岳山頂はガスが濃く、強い西風が吹く。
- 12/27 3:00 山すかに雪がもう 夜9:00 星がたいへんきれい。
- 12/28 朝 5:00 雪が降り始める。三俣達、華園辺 北西の風、ガス共に強い。雪は降っていない。
- 12/29 出発前 雪とガス 出発してすぐ回復してきた。その後快晴。午後、飛騨側からガスが上り始め、曇り出す。
- 12/31 朝 日の出がたいへんきれいでした。横尾尾根は大変天気をよみ、ポカポカしました。  
5:00 三俣への車道途中で雪が降り始める。



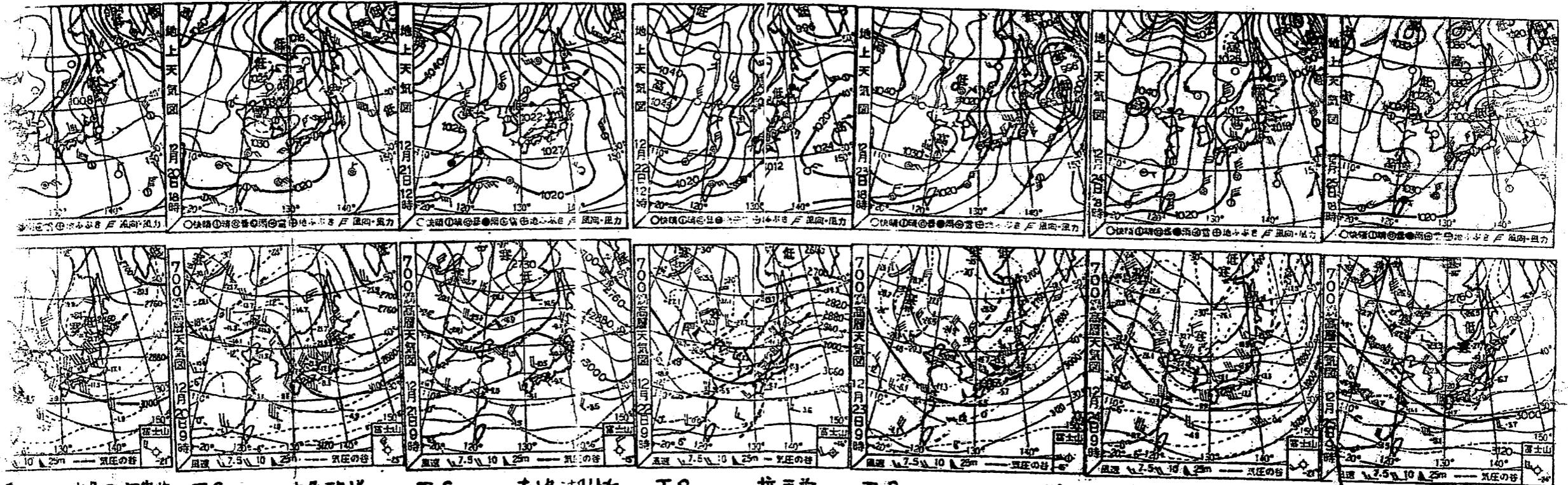
尾根  
が  
消えた

# — 気象 — (中村)

## 《合宿中の天気の変化》

入山前の予想に反し、比較的穏やかであった。  
 稜線上で天気の崩れた日は、12月25日と26日の午前中、  
 28日くらいで、その他の日はあまり大きな崩れはみられ  
 なかった。これは高層天気図で見られるように、気圧

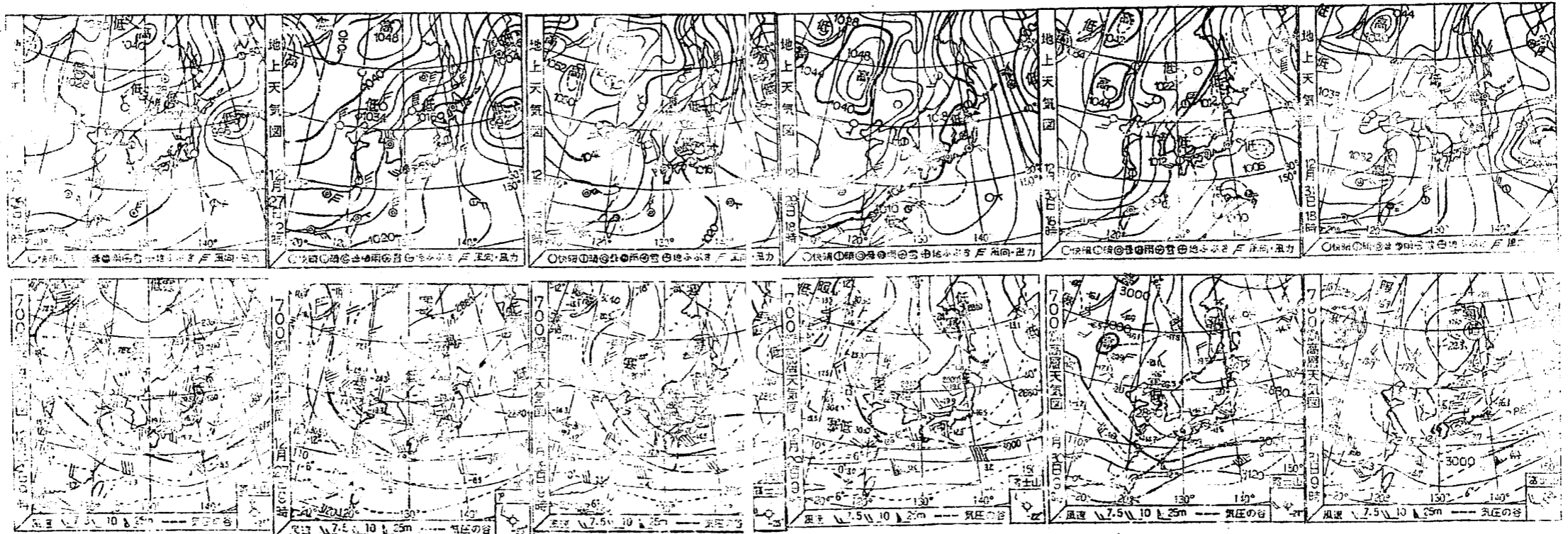
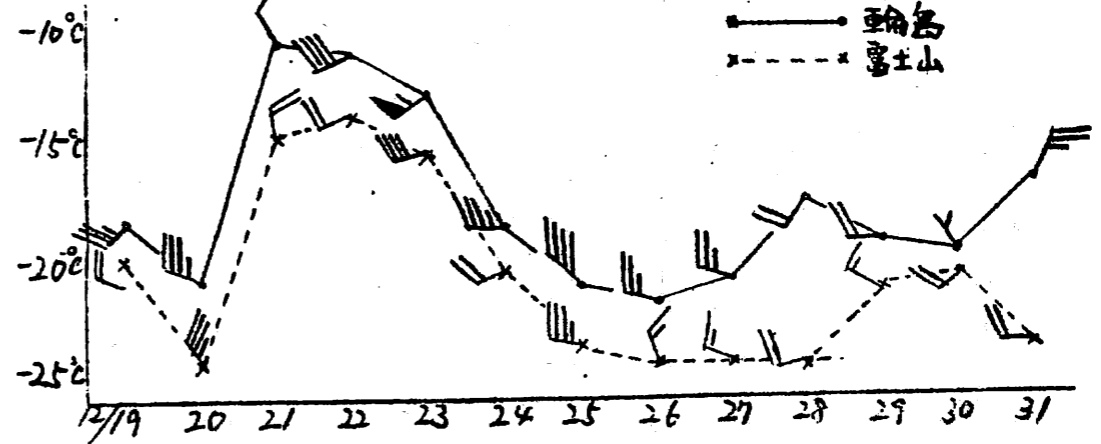
に大きな波がみられず、大きな谷や峰が発達しなかつたためである。この原因として、あまり大きな寒気団が日本上空におりてこなかったこと、低気圧が例年より北を通過したため、本州上で等圧線がたてに並ぶ強い冬型



<p>大物利部先 T.S. → 大物利部 ⊗ → ⊙</p> <p>再びの強い寒気が通 つた後、-24℃以下 を伴った気圧の谷 日本上空を抜けて</p>	<p>大物利部 T.S. → 有峰湖村直 ⊗ ⊙</p> <p>大陸から接近してきた気圧 の峰が本州をおおう。</p>	<p>有峰湖村直 T.S. → 拉平前 ⊗   ⊙</p> <p>優勢な気圧の峰におお われる。次の気圧の谷 が接近。</p>	<p>拉平前 T.S. → 1600m村直 ⊗</p> <p>沿海州北部は気圧の中 心にあつて、中心から 南面に延び、中部まで 達する深い気圧の谷が あります。次に、 -30℃を起す寒気 とともなつた別谷がみられる。</p>	<p>1600m村直 T.S. → 太郎平小屋 ⊗</p> <p>沿海州と本州の上空にあつた 気圧の谷は東海上へより 横断にあつた。-27℃前後 の寒気が北日本方面に 流れ込んでくる。</p>	<p>太郎平小屋 T.S. → 沈殿 ⊗ ⊗</p> <p>東方洋上の高層のおよむ優勢 な気圧の峰を押しえられて 北日本と通つた寒気は弱め られ北上。次の強い寒気 とともなつた気圧の谷がす てに日本海に現れる。</p>	<p>沈殿</p> <p>気圧の谷が東海上に抜 け、日本海北部の-27℃ の寒気が南下。</p>
--	---	---	--	--	---	--

の気圧配置が出来にくかったためと思われる。  
 その他、色々な要因が考えられると思うので各自考察し  
 てみて下さい。最後に一年生は、しっかり天気図を  
 書けるようにすること!

《輪島上空700mb及富士山での気温と風向の変化》(9:00)



<p>T.S. → 葉師岳                  ② → ②                  気圧の谷が→東海上に抜けたあと、沿海州付近の低気圧から南に延びる気圧の谷が日本海中部を東進中。</p>	<p>T.S. → 五郎小屋                  ① → ①                  昨日、沿海州南部にあたる低気圧が東に去り、これとつながる気圧の谷と本州東沖に抜けつつある。変わった大陸の気圧の峰がはりました。</p>	<p>T.S. → 又六小屋                  ② → ②                  日本海に-26°Cの寒気帯に伴う低気圧があり、その付近から南には谷ととも日本を東進中。</p>	<p>T.S. → 槍肩の小屋                  ② → ①                  朝鮮半島の北には-27°Cの強い寒冷渦がある。</p>	<p>T.S. → 横尾尾根                  ① → ①                  東シベリアには気圧の谷があり朝鮮半島にも-26°Cの寒冷渦がある。</p>	<p>T.S. → 下山                  ① → ①                  沿海州にある低気圧はほとんど停滞気味。</p>
---	--	--	---	--	--

係からの報告

1. 会計報告 (鷹取)

◎ 収入

項目	金額
山行費	280,000
カンパ(田辺氏より)	1,000

Total ----- 281,000

◎ 支出

交通費 ----- 59,140

( 松本~富山  $2000 \times 14 = 28000$   
 富山~西上り山  $510 \times 14 = 7140$   
 沢渡~学校  $8000 \times 3 = 24000$  )

装備費 ----- 34,949

Essen費(酒、ケキ代含む) ----- 183,636

Total ----- 277,725

◎ 総収入 ¥281,000

〃 支出 ¥277,725

計上残高 ¥ 3,275

残高 ¥ 3,275

不明金 ¥ 0

◎ Essen費は、1人1日あたり  
 625yenとなった。  
 装備費の大半はガスヒメツビ  
 占められまふ。

## 2. 装備 (古賀)

ガス 総使用量 約 20ℓ

120 cc/day/人

ローソク 約 0.8本/day

(1日に三本同時使用し得)

メタ 約 1箱/day

カイロ 約 0.25巻/day

ガスは小屋使用 水使用だった為、やはり  
140 cc/day/人 は必要。

## 3. Essen (藤田)

今年の冬山の Essen は軽量化と小型化に重点を置いた。  
そのため朝は、マカポテをかやし、ラーメンライスをやってみた。  
行動食はすべてビスケット、夕飯はすべて雑炊にした。また、  
ペミカンを廃止し、レーションの充実化に努めた。

朝……マカポテは、マカロ=45g ポテト 55g クリームシチュー+  
カレーのクリームシチュー+ドレッシング+スパイス。マカポテの味  
はまだまだ追求できる。レーションも1~2度は入れてみ  
てもよかった。ラーメンライスは、めん 1/2袋、米もどき 0.2ハイ  
(食器)であったが、スープが人数×1/2個しかないので  
うす味になってしまった。マルチラーメンはかさばらず  
良いが、若干量が少な(約1.3袋が良い。

昼……ビスケットはすべて 180g (実際)、150g (予備)としたが

かなりずしも重量が多いから満足いくものとはならない。  
特に、チョコやクリームがついているビスケットは重量に比べ  
体積が少ない。オールシーズンは1.5袋ぐらいほしい。  
準備日の前、ビスケット何枚にするか一度サンプルをつくってみる  
と良い。レシヨンはビタミンの摂取を考え、カロリーメイトを  
入れたが、ビタミン剤なども、4日~5日に1度ぐらいもつ  
ても良いと思う。また、アルパインパン、SIMACも取り入れ  
ても良かった。

夕 …… すべて無効にした。全体的に、うま味であったが、  
コンソメ150個、だしの素80袋、中華味70個分用意した  
ので、まはと全消はなかった。コンソメは200個ぐらいもつ  
いか、味つりを1.5倍~2倍ぐらいもつていくと良いかも  
しれない。塩は400gだったが600g~800g(ぐりい  
必要であろう)。また、米(4回)米もどき(10回)、又米(6回)  
をもつて行ったが良かったと思う。

Essen袋 …… お茶3袋では足りない。5袋ぐらい必要。  
コーヒー、紅茶、ココア、レモンティー、レネードを持って行  
ったが、砂糖は2kgで良いだろう。酒はメロ-イロ-  
1.5リットルに入れていった。乾燥野菜はだいたいよかつた  
が、タン箱以外にEssen袋にかなり持っていった。  
タン箱に入れる分はもう少しふやしても良い。

Essenは特に冬山では大きな楽しみのものである。ここ  
何年か軽量化指向であるが、冬山の全体の中で意味を  
もった計画をしてほしいと思う。また、買い出しのとき

多量に買うものや、店に時々しか入らないものは、あらかじめ店に伝えておいた方がいい。

#### 4. 医療 (中村)

今回は軽い凍傷にかかった者が数名いただけで、ほとんどケガが病気がなかった。医療カンを一度もあけることなく終ったことは幸いであった。

しかし、いくら軽い凍傷やカゼであっても冬山では現実な処置としておかないと、大きな事故につながる可能性がある。行って来た医薬品をフルに活用してもらいたかった。

又 今回の山行のように2〜3週間の長期に渡る山行では、ビタミン剤の携帯も必要であろう。

#### 個人の反省

合宿全体を通じて緊張の連続だった。核線にのぞくまでで体力を使い、慣れないアイゼンを使い初めてからバテの連続だった。緊張が最後まで持続できず、最後のガリでこけたのが悔やまれる。自分の命は自分が守るしかないのもっと最後まで気い締めてやりたい。

(大前)

冬山というのはえらい寒いところだと思っていたので、こんな服でだいじょうぶなのかなとはじめは思っていたのだけれど、終わってみると予想程は凍えなかったのによかったでした。セーターも一度も使わなかったし、けど。



あたたかいはずがなくさむかったです。これからのこと  
では体力をもうすこしつけていこうと思います。それから、ふと  
年内下山できたのだけど、それでも2週間も山にはおいて  
いたので、少し長過ぎるような気がします。

(岡本)

今回の合宿も自分なりに最善を尽したつもりだが不十分な  
点がいくつもあった。生活技術ではEssellで朝人に  
言われないと起きなからったこと。起きてからも、アゼンワークまで  
時間がかかった。それと自分の事をやる時間が長かった。  
アゼンワークも悪くよくひらかけたのでもっと意識して歩く  
べきだと思ふ。みんなについていくのがや、とてあったが、  
登山は憧れだったので非常に楽しかった。

(加藤)

生活技術の進歩がなかったのと、天気図がまともに  
書けなかった。それから、寒さに負けてつい仕事をやるのが  
おそくなったり、まぼ、たりしたのが心残りである。もっと緊  
張すべきであったと思う。来年からはアプローチの短い所  
に行きたいと思う。

(角谷)

今回余裕で喫煙できたのは2日しかなかった。やはり  
まだ体力がなかったと思う。ワカンやアゼンワークは足  
おきかたが甘かった。生活技術もバテるときは染ま  
しようとした感があった。途中体調を崩したりして、  
やはり緊張が足りなかったと思う。だが、いつも合宿の  
ときはもうやめようと思つたのに、今回はそんな気が

ちとも起しなかったのは、やはり成長したのかも  
しいない。「あぶさん」もガボガボ飲む上級生には  
驚いた。今後よりいっそう努力をしたい。

(下田)

先ず今回の合宿の一番の反省点はトレーニング不足でした。  
入山五日目の太郎への登りの時はもうすでにバテバテ  
を槍ヶ岳まで行く気なんでも薄れていました。  
そして気分的にもずいぶん利己的になってみんなに  
迷惑をかけてしまいました。悲憤の面でも急にアイゼン  
がはがれてしまったり、ワカンでスパッツを破ってしまったり  
して準備不足、技術不足をひしひしと感じました。  
また、朝定刻に起きれなかったのも反省させられます。  
食事でも朝夕は常に少しでも大盛りをねらってしまったし、  
昼食も小屋に入ってすぐ食を出してしまったりして先輩  
から注意を受けたのも思い出だけで恥ずかしい  
反省点です。以上を反省点として常に掲げていま  
したか結局できませんでした。これから直せるか  
どうかがとても不安です。

(水谷)

冬山合宿は体力的にはあまり危機感を感じなかつたが、  
技術面、特にアイゼンワークと生活技術で  
まだまだ未熟な面が多かった。12本爪アイゼンに  
慣れいすが、気をゆるめるとすぐに前爪とひっかけ  
しまいそうになった。また、生活技術面では、まずEsse  
の時朝起きれなかったことと筆頭に色々問題が

多かった。一年生として最後の合宿なのに、いまだに  
上級生から数多く注意されていて、もっとしっかりやら  
ねばと思った。合宿の途中の反省会で、藤田さんが  
言われた通り、体力的には上級生との差は入部当時  
よりせばまってきたと思うが、総合的な力は上級生と  
一年生では大きな差があるので、無事二年生になれるか  
不安である。

(森)

とにかく、アフロ-4でのラッセルの多さが印象的で、今後  
富山側から入山する場合は考慮する必要がある。天気は  
下山日を除いてそんなに良くなかったが、稜線へ上がっ  
てから思い切って行動したのと全体的な(特にエッセン)  
軽量化が成功につながったと思う。西鎌尾根は1,2ヶ所  
FIXが欲しかった。個人的には去年ほど「おくが」出ず、  
エッセン等々あまりにも一年にまかせすぎで、横から勝ちな  
ことと聞いていたように多いに反省しています。

(井上)

今回の山行は結果的に大成功であったが、内容的には  
本当にそうであろうか? 何故山岳部で山に行かなければ  
ならないか。そこを一人一人考えて欲しい。ヒントは  
山岳部は山だけ登る集団じゃない。

(古賀)

今回の冬山は、気象条件等まことにラッキーだったと思う。  
うまくいったが、そのへんのところは忘れてはならないでしょう。  
あと、1年はソツソツこなしていたと思うが、その反動からか、

緊張感が足りなかったようだ。これがトレーニング不足にも  
つながっているのではないか。

(鷹取)

林道で苦労したわりには稜線上にいた日が短く、あとい  
う間に終わってしまった気がする。半数が一年生という  
山行計画なり 技術的にも日数的にも無理なルート  
だったと思う。ひさしびりにキスリングをかけたが重かった。  
やはり日ごろの体づくりが必要であった。

(中村)

まずは成功うれしく思う。入山の林道で日数を費し、年末年始  
は大荒れという予想もあり、かなり前半は計画の成功が  
あやぶまれた。今回は団装が平均で 20.5kg/人であり、  
個装によっては 40kg 無かったと思う。冬山としては比較的  
軽かったと言えよう。長時間行動は軽量化の成果だったと  
思っている。行動は全体としてスムーズにいったが、多分に  
下級生が上級生に引っぱられていたように感じた。当然、  
トップは上級生が歩くのでついて行けば登山はできる。しかし、  
T.S. や FIX 地点、なだれ、気象など常に考えながら歩くべきで  
ある。判断力は考えながら歩く経験なしには得られない。  
また、歩くスピードの遅い人へ一言、歩くスピードは単に体力だけ  
なく、バランス感覚によっても変わると思うが、まずは体力が  
ある。分担された荷が自分で持てないようでは入山の資格  
さえ疑問である。当然、批判されなければならぬ。  
トレーニングにおげむこと！ 春山に期待する。

(藤田)

# つし冬合宿

遠見尾根 12.3 ~ 12.5

(参加者) 大庭取、中村、吉野、後田、井上、前園、加藤、角谷、下田、水谷、秋

12/3(土) 松本 → 神城

- 8:30 山麓駅 (← アカイ) テリキャビン
- ⊙ 9:20 ワカをつけ、スキー場を登り始める。
- ⊙ 5時、スキー
- ⊙ 15:00 大遠見山のあたりのあたりかなと=3.

信じられないくらい雪が積もっていた。積もってる  
と=3では、腰上のラッセルに存るワカン歩行は  
はじめてなので全く思うように歩けない。体力的にも  
もう一歩だった。普段のトレーニングをもっとしとくべきだった。

(テリキャビン代 片道 600円 荷物代 150円)  
20kg 32

12/4(日)

てんきが重くおし待機

- ⊙ 9:20 T.S. 発
- ⊙ 10:20
- ⊙ 11:35
- ⊙ 13:10 吹雪にあってきた。自岳をたいてから (陸線にて  
てか)は、ワカンをはずしてテリキャビンをつけた。
- ⊙ 14:10 五竜山荘着

五竜山荘にははいれない。着いてからは雪などもおさまってきたので、建物のすぐおきに雪洞をほた、(1.5人は内たり)とはいれるくらいのもを。けど、何にも利用しなかった。

12/5(月)

ガスがひどいので、八方尾根はやめることにし、遠見尾根から歩いていくことにする。

- ⊗ 7:55 T.S. 発
- ⊗ 8:10 白糸頂上。アセシエはすし。ワカンをつける
- ⊗ 9:00
- ⊗ 10:10
- ⊗ 11:15 小遠見山
- ⊗ 13:30 スキ場を下っていく。(ワカンエはすし?) 山麓駅
- ⊗ 14:00 神工成駅

白糸頂上をすしおいた所で登ってくるパーティとすれ違た。おかげでワカン歩行はうまくできなかったけど、初日よりはましでしたたと思う。ワカンのひもはバキバキに凍ってしまうので、非常にしめにくかった。アセシエは、たっぴりとぬっておくべきだと後悔した。遠見尾根は、この時期、上のテではすくぬるほど、下はほとんど凍りついている。今年は数年来のワカ雪が降ったので、例年のアセシエ冬合宿よりは、たいへんたっただよである。ラセルって二人に凍えるものだったのか、というのが実感である。

# 個人山行報告

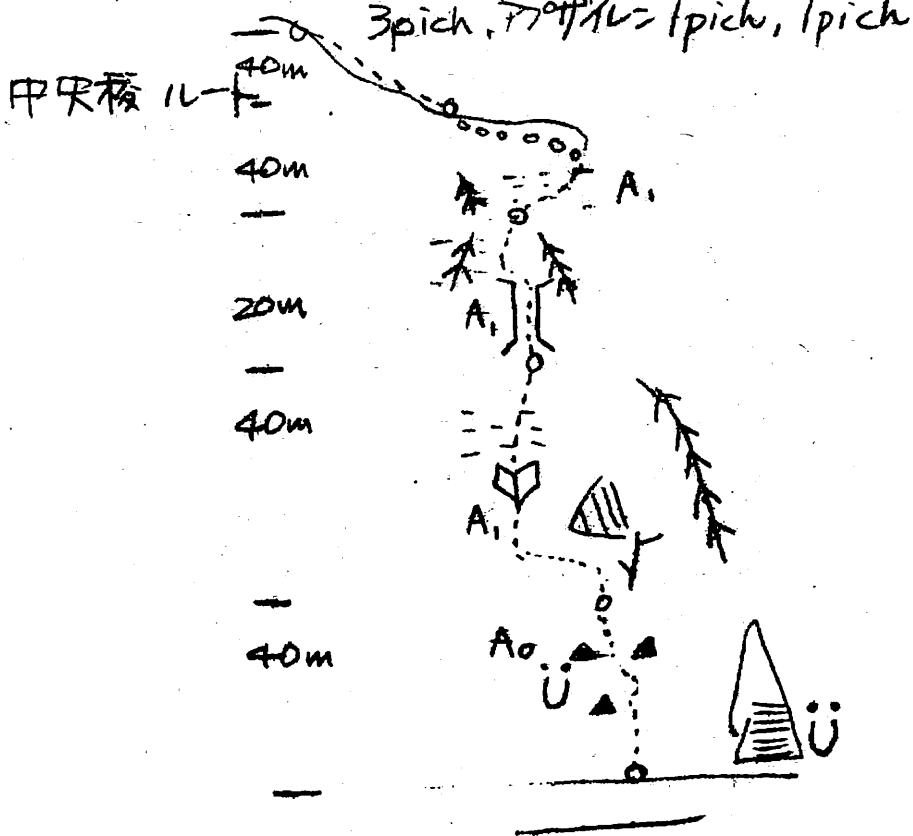
## ・宝剣岩登り

L. 山ノカワ. フニタ

11/12 ① 伊那 6:48 河分根 8:00 山ノカワ 9:00 山ノカワ 9:35  
 10:30 T.S (1 剣山荘の横)  
 12:20 宝剣岩の 2 尾根に取付 (1 2 尾根と見、E  
 5 3 尾根に取付 11 乙 L 尾根 E)  
 取付 13:30 終 16:50 3 ピック + コ = 丁

11/22 ① T.S 7:00  
 宝剣岩頂, 中央校ルート 取付 7:35 終 13:00 4 pick 半  
 T.S に戻、下後、不曾駒をピストにする。

11/23 ① T.S 7:20  
 天狗岩 学芸下ルート 取付 8:00 終 11:45  
 3 pick, アザール = 1 pick, 1 pick



○ 明星山 左岩稜 L. 細川, 藤田

12/6 松本 ~~→~~ 小滝 — 工所用小屋

12/7 ① 6:20 出発  
11:30 取付  
1:00 終了 } 4 pick  
12:00 下降終了 (アプロガイ)

日頃の登山はかなり雪がつかないが、南壁には殆んどなく、スリッパで登山という感じでした。また、アプロガイの不道徳、雪崩が恐ろしいのは確かです。工所用小屋に配るには見えない。

○ 屏風東稜 L. 細川, 藤田

12/9 ① 松本 9:00 — 沢渡 9:50 — 10:10頃、トラックで中津川  
+ 工所用小屋 10:50 — 横尾避難小屋 15:00

12/10 ② 4:30 出発 約20分して、シラフ、EPIを持って、2人で行く事とし、取りに帰る。明るくなるまで待つ、2人出発。

6:10 出発 — 1ル=セ" 出発 7:30

T4 尾根 取付 9:30

1 pick 2.5h

2 pick 1.0h

3 pick 1.0h

+  
コ=テ

+  
1 pick

+  
コ=テ

終了 16:30 T4でセ"11-7

残から②

岩はしっかり氷がつかない  
雪がつかない

T4の雪を整地できるのは、2人なら楽に横に歩ける。夜12:00頃1ル=セ"から音と一緒に雪崩る。1:00頃と2:00頃の2回雪がきて、ツイルは殆んど埋まる。

12/11 ④ ぬけアプロガイ (4 pick)

8:00 出発 — 9:30 溜沢 出発

10:30 横尾 — 12:00 上高地 — 15:00 頃 成功



○ 剣岳 12/28 - 1/4 L, 中島岳頂(DB), 藤井卓也

12/28 ① 松本 → 奥津 → 上戸 → ソノダ → 発電所手前 → 馬場島  
積雪は並だが、夕刻 - 2 時頃、P が頑張る、2 時頃、奥へ行く。  
馬場島で トラッシュバー を食べる。

12/29 ② 馬場島 → 小丸尾根取付 - 1600M - 1300M  
6:30 9:00 11:30 13:30

小丸尾根の取付は池ノ谷 出合の次の浅い川にせいである。  
カリーを登ると稜線に出、しばらくで広くなり、とてか 1600M  
大場には適当である。1600M 小丸尾根は左に折れ、中丸尾根  
が続く。1500M 以上で積雪は増し、ヒドヒドな程度のセル  
ルとなる。1900M 以上の登り手前まで雪洞を作る。

12/30 ③ S.H. - マツ箱のピーク  
6:45 14:40

P1960 を池ノ谷側 雪壁に登る。干し雪が少し出ている。  
ニードルはピーク直下を fix 浴びに池ノ谷側へ巻きこむ。下  
結構シビア。ドームへの登りも池ノ谷側は fix が有る。  
馬ノ背は 40M の岩稜であるが、トビウガなどで進めず、木休  
み、次は小工な岩場が出るが、白根川側の fix を利用して登る。  
小工はが難かしい。マツ箱の左の干し雪 - 2 時頃  
白根川側のカリーを登る。雪は不安定。おと、氷の工を  
木休いと、バツナからピークへ。マツ箱の 2 目のピークの  
直下で雪洞を作る。

12/31 ④ S.H. 6:40 - 三ノ丸 8:10

EB 歩下り。干し雪は真白で 1B の可能性が大なので  
今日、取り付くのは止める。

1/1 ⑤ 三ノ丸 雪洞の入口、一生懸命雪を埋める。  
今日はめでた正月、めでた正月。

1/2 ⑥ 三ノ丸 今日大雪。今朝除雪。



○ 甲斐駒ヶ岳系統 L 糸川, 藤田

1/2 ① 白須 9:10  
 駒ヶ岳神社 10:00  
 不動滝下 11:15  
 黒戸尾根 1650m 5:30  
 B.P (2040 の 214) 7:20

深谷道より入山してか、道がかなり荒れに  
 なる(特に不動滝先) 時間を食った。高巻  
 道より"ミニ"道に入るといい。結局、黒戸  
 尾根 1650m 地点に出た。

1/3 ① B.P 8:10  
 五合目小屋 9:00  
 7又瀑取付 11:20  
 " 終了 5:30  
 五合目小屋 8:30

五合目小屋に荷物を一部テイクし、七合目  
 のコルよりルニセまで下降して七又瀑下  
 に到着。1.2Pは1-マルル+で 1P目傾斜  
 緩い氷壁。2P目5mの小垂壁より石上  
 瀧下の木でゴシ。3P目左に3m程  
 トラス後垂直のカンテを回り込むよう  
 左上し、垂直のカンテが左の3又瀑  
 部をフリーでタイルに登る。上部で  
 傾斜が落ちこからは左上して(グレドはV、全  
 糸川リード) 下降は右岸の尾根にとり、最後  
 40m x 2Pのアツアガイルでコル木の所  
 へ降り立つ。ルニセを篠沢側へ少し降  
 りると七又瀑下に着く。  
 右は左岸も降りられそうである。

1/4 ① 小屋 8:00  
 左俣出合 11:40  
 F5 下 1:40  
 11又岩小屋 7:00

巧主の滝(40m x 1P) テムニ滝(40m x 1P),  
 F5の垂直滝(40m x 2P) のタイル使用。F5は  
 糸川のみ崖が2リ+。七又瀑は氷壁と氷圧感  
 が少なく、途中2ヶ所はヒト休める所がある。  
 グレドはV。上部でタイル2本連続し、木  
 に固定して懸垂でラニニングを回すのが  
 降りやすい。F6は真中より石を登る  
 ならタイルを出した方がよい。抜けこからは左  
 寄り、11合目島居付近に出た。

1/5 ① 岩小屋 7:10  
 中俣取付 8:00  
 " 終了 1:40  
 稜線 4:20  
 岩小屋着 5:00

ここ2-3日降雪がなかったためか、  
 右ルニセでは小さな雪崩が頻りに出  
 ている。  
 1P 1本がやると入るくらゐのテムニ  
 フェースも石上し、ブッシュ帯は40m

2日、ブッシュ混りの雪壁を登り、第二バンドへ、40m

3日、石ルゼン トラバース後、石ルゼンを少し登り、  
再び中隊稜に戻る。40m

4日、ブッシュ混じりの急な雪壁。所々=露岩あり。40m

5日、足が入るクラックの雪の付いた左側を登り、  
ブッシュ帯へ、エルトの核ルゼンで40m

あとはブッシュ帯をコンテで。途中 20m x 1P. 40m

x 1P, a 2回 ガイルを使用

1/16 ⊗ / ⊙

岩小舎茶 8=10

五合目小屋 9=30

駒ヶ岳神社 12=10

竹亭 12=50

信州大学山岳会 報告書  
冬山合宿  
Pre冬合宿  
個人山行  
559. 2. 4. 舞分

乱筆で どうぞすみませんでした。

S.A.C.®

加藤

発行者	信州大学山岳会
発行所	信州大学山岳会松平支部
印刷所	信州大学医療短期大学自治室
発行日	1984. 2. 4 SAT